

2026年卒
Vol.10

10月1日時点の就職活動調査

キャリタス就活 学生モニター2026 調査結果 (2025年10月発行)

2026年卒の就職戦線は、正式内定解禁日である10月1日を迎えた。キャリタス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は4年連続で9割を超えたことがわかった。ただ、高水準ながらも、前年同期実績を僅かに下回った。

また今回は、内定後のフォローについての意見や、中小企業への応募状況、地元就職、就職活動費用など多岐にわたる調査結果を紹介したい。
(2026年卒・定期調査 最終回)

1. 10月1日現在の内定状況 (※)

- 内定率は92.3%。前回調査(7月調査、87.3%)から3カ月間の伸びは5ポイント
- 4年連続で9割を超えたが、前年実績(93.1%)を僅かに下回った
- 就職先決定者は全体の86.2%。内定保留者(1.7%)を合わせた活動終了者は87.9%

2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定

- 「就職先が決まるまで就職活動を続ける」58.8%。理系は過半数が「大学院に進学」

3. 就職決定企業の属性

- 就職決定業界は前年に引き続き、文理とも「情報処理・ソフトウェア」が最多
- 「インターンシップ等参加企業(※)」の割合がさらに増加し、5割超に(50.7%)

4. 内定後のフォローと内定者研修

- 企業に望むフォローの頻度は「毎月」が最多(38.6%)。次いで「隔月」(29.1%)
- 内定期間中の研修や課題には6割超が賛成の意向。「eラーニング」が人気

5. 中小企業への選考応募状況

- 中小企業の面接試験を受けた学生は全体の49.7%。平均社数は2.2社。ともに前年より減少
- 中小企業を受けた理由は「会社の雰囲気がよい」39.1%、「やりたい仕事に就ける」38.7%

6. 地元就職の状況

- 就職先が決まった地元外進学者のうち、Uターン就職は約2割(21.1%)

7. 就職活動の費用

- 平均80,186円で、前年より3千円余り増加。但し「交通費」は減少傾向が続く
- 総額が最も高いのは「東北」(141,797円)、最も低いのは「関東」(62,363円)

※「内定」には、内々定を含む

※「インターンシップ」に限定せず、1日以内のプログラム等も含めて尋ねた

調査概要

調査対象：2026年3月に卒業予定の大学4年生（理系は大学院修士課程2年生含む）
回答者数：1,040人（文系男子225人、文系女子434人、理系男子242人、理系女子139人）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2025年10月2日～9日
サンプリング：キャリタス就活 学生モニター2026
調査実施：株式会社キャリタス／キャリタスリサーチ

1. 10 月 1 日現在の内定状況

10 月 1 日現在の学生モニターの内定率は 92.3%。前回調査 (7 月 1 日時点) の 87.3% から 3 カ月間で 5 ポイント伸び、9 割に達した。前年実績 (93.1%) には僅かに届かなかったものの、10 月の内定率が 9 割を超えるのは 4 年連続となる。属性別に見ても、いずれの属性も 9 割に達しており、大きな差は見られない。

今期は早期化の進行が著しく、序盤から前年実績を大きく上回る内定率をマークするなど、過熱ぶりが目立った。5 月調査で前年をやや下回ったあとは、6 月・7 月と前年同月との差が開いていたが、10 月時点で僅差にまで追いついた。企業の採用意欲が依然高い状態にあることを裏付ける。

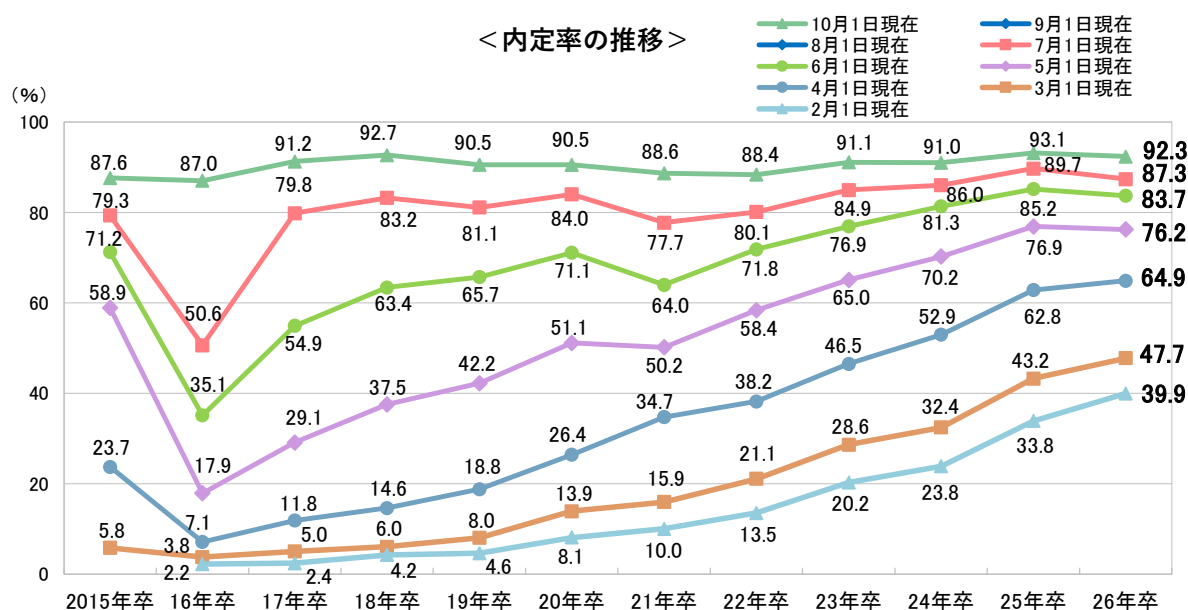
内定取得学生の平均内定数は 2.5 社。内定者の多くが複数の企業から内定を得たことがわかる。

<10 月 1 日現在の内定状況> *「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		92.3 (93.1)	90.2 (92.9)	95.2 (93.7)	90.5 (90.6)	93.5 (96.7)
内定なし		7.7 (6.9)	9.8 (7.1)	4.8 (6.3)	9.5 (9.4)	6.5 (3.3)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	93.4 (96.4)	92.1 (93.7)	92.5 (97.8)	94.5 (96.0)	98.5 (98.6)
	活動は終了したが複数内定保持	1.0 (0.9)	0.5 (1.0)	1.9 (0.8)	0.9 (1.2)	0.0 (0.7)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.8 (0.8)	0.0 (0.7)	0.7 (0.3)	2.3 (1.6)	0.8 (0.7)
	就職活動継続	4.8 (1.9)	7.4 (4.5)	4.8 (1.1)	2.3 (1.2)	0.8 (0.0)

		(社)				
		全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数／平均		2.5 (2.6)	2.6 (2.7)	2.7 (2.7)	2.3 (2.3)	2.2 (2.5)

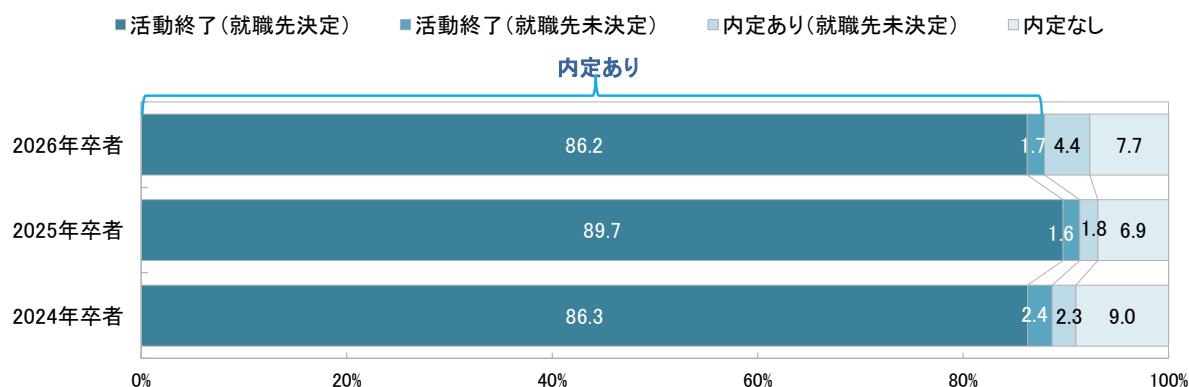
※ () 内は前年 (10月1日現在) の数値



※2015年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17～26年卒は6月

活動状況の分布を見てみると、調査時点で就職先を決定して活動を終了した人の割合は 86.2%。文系学生を中心に、内定を持ちながら活動を継続するなど、決定に至らない学生が増えたことから、決定者の割合は前年（89.7%）をやや下回る（3.5 ポイント減）。

<活動状況の分布>

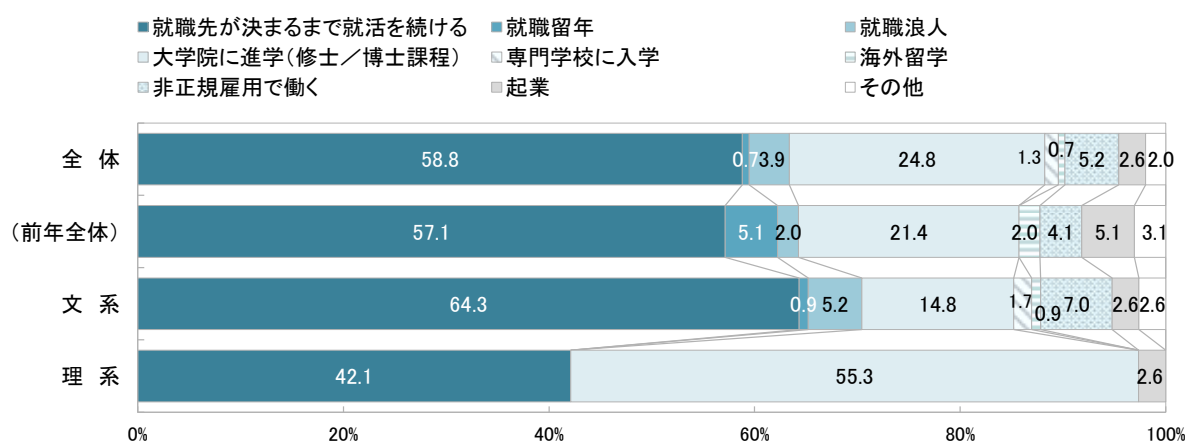


2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定

10月1日時点で就職先が決まっていない学生（モニター全体の12.1%）に、今後の予定を尋ねた。

「就職先が決まるまで就職活動を続ける」という回答が今年も半数を超えるが（58.8%）、就職以外の進路を考えている者も少なくない。「大学院に進学」（24.8%）が前年より増え、より専門的な学問を修得してから就職したいと考える層も少なくないようだ。とりわけ理系学生において顕著で、過半数が選択している（55.3%）。一方、文系学生は「就職先が決まるまで就職活動を続ける」という回答が圧倒的に多く、6割以上を占める（64.3%）。

<就職先が決まっていない学生の今後の予定>



■就職先が決まっていない学生の声

- 内定先より条件や興味がまさる企業に絞り、就職活動を続ける。 <就活継続：文系女子>
- 新たに仕事を通して成し遂げたいことが見つかったため、実現できる企業の選考を受けている。 <就活継続：文系女子>
- もっと専門知識を学びつつ、自分に合ういい会社を見つけていきたい。 <大学院進学：理系男子>
- 今の自分ではまだ就職するにはあたらないと思った。 <大学院進学：理系女子>
- どうしても志望業界に入りたいので一定期間まで就活し、決まらなければ専門学校に進学する。 <その他：理系男子>

3. 就職決定企業の属性

就職先を決定して就職活動を終了した学生（モニター全体の 86.2%）の、就職決定企業について確認したい。

まず、業界を見てみる。文理ともに最も多いのは、前年同様「情報処理・ソフトウェア」。それぞれ決定企業の 1 割以上を占め、文理にかかわらず採用に積極的な企業が多いことがわかる。ただ、前年に比べ割合は下がり、集中度は低下した。文系の 2 位は「官公庁・団体」、3 位は「銀行」で、トップ 3 は前年と同じ顔ぶれ。理系は 2 位「電子・電機」、3 位「建設・住宅・不動産」などと続き、製造業が上位を占める。

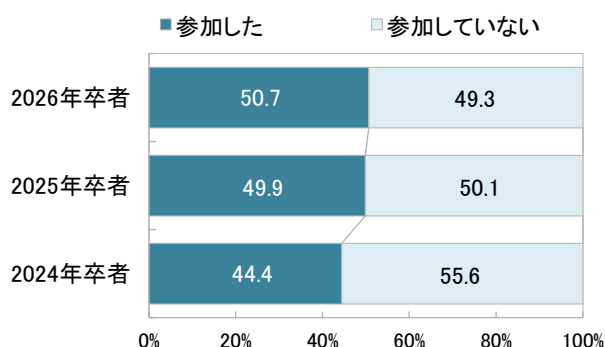
<文 系>			<理 系>		
2025年卒者	%		2025年卒者	%	
1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	14.1	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	15.1
2位	銀行	7.8	2位	建設・住宅・不動産	11.9
3位	官公庁・団体	6.5	3位	自動車・輸送用機器	9.1
4位	調査・コンサルタント	5.4	4位	電子・電機	8.3
5位	運輸・倉庫	4.9	5位	素材・化学	6.8
6位	その他サービス	4.6	6位	医薬品・医療関連・化粧品	5.5
7位	建設・住宅・不動産	4.4	7位	機械・プラントエンジニアリング	4.9
8位	商社（専門）	4.1	8位	水産・食品	4.2
9位	保険	4.1	9位	調査・コンサルタント	3.9
10位	マスコミ	3.3	10位	官公庁・団体	3.9
	電子・電機				
2026年卒者	%		2026年卒者	%	
1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.8	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	13.1
2位	官公庁・団体	10.2	2位	電子・電機	11.0
3位	銀行	9.8	3位	建設・住宅・不動産	8.4
4位	建設・住宅・不動産	6.0	4位	医薬品・医療関連・化粧品	7.8
5位	運輸・倉庫	5.6	5位	自動車・輸送用機器	6.9
6位	調査・コンサルタント	3.6	6位	官公庁・団体	6.0
7位	保険	3.4	7位	機械・プラントエンジニアリング	5.7
8位	情報・インターネットサービス	3.3	8位	素材・化学	5.4
9位	電子・電機	3.2	9位	調査・コンサルタント	4.5
	コンビニエンス・GMSストア		10位	精密機器・医療用機器	3.9

※40業界のうち上位10業界を掲載

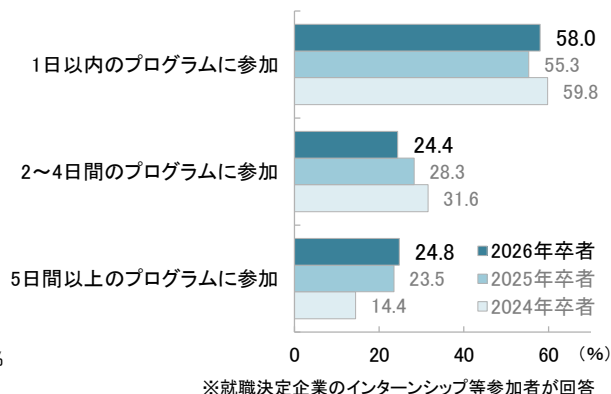
※「その他サービス」＝介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

就職決定企業がインターンシップ等に参加した企業だったという人が前年よりさらに増加し、半数を超えた（50.7%）。プログラムへの参加を通して志望度を高め、就職先として決定するケースが増えている様子が見取れる。参加日数については、「1 日以内のプログラム」が 6 割近くに上る（58.0%）。なお、「5 日間以上のプログラム」に参加していた人はこの 3 カ年で増加傾向が見られ、今年は「2～4 日間」を上回った。

<就職決定企業のインターンシップ等への参加>



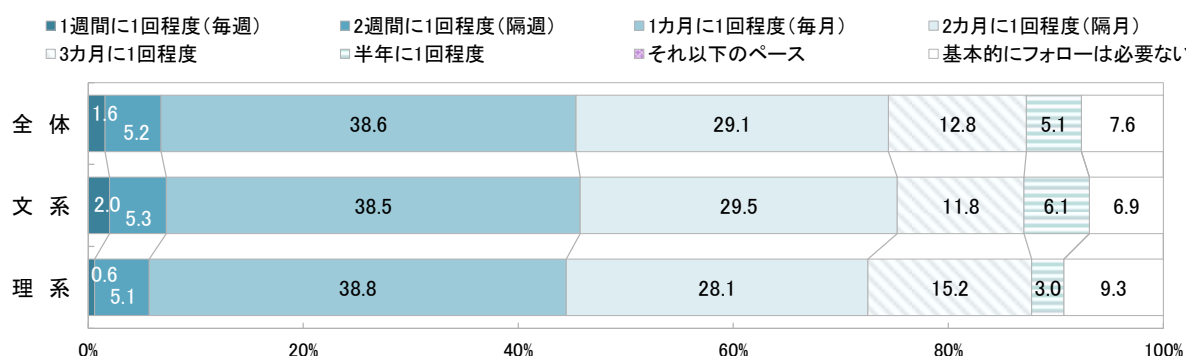
<日数別参加状況>



4. 内定後のフォローと内定者研修

就職先を決定して就職活動を終了した学生に、入社までどのくらいのペースで企業にフォローしてもらいたいと思っているのかを尋ねた。最も多かったのは「1 カ月に 1 回程度 (毎月)」で 38.6%。次いで「2 カ月に 1 回程度 (隔月)」(29.1%) が続く。研究が忙しい理系学生は、文系と比較すると少ない頻度を望む傾向が見られるものの、文理ともに一定のフォローを期待している様子がうかがえる。

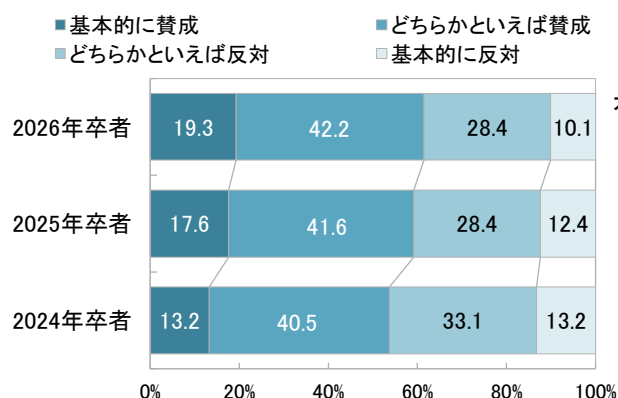
<企業に希望する内定後フォローのペース>



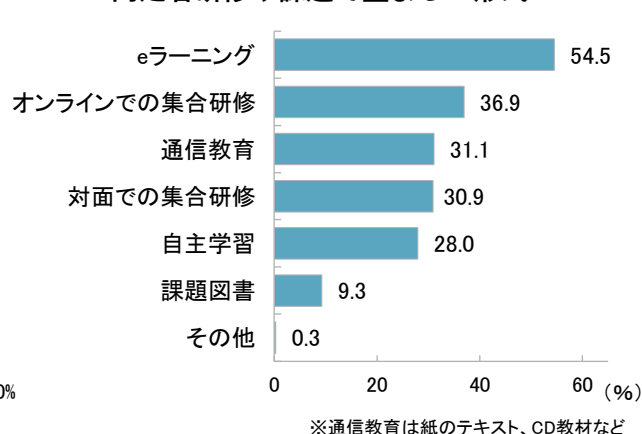
内定期間中に研修や課題が出ることへの賛否を尋ねると、「基本的に賛成」(19.3%)と「どちらかといえば賛成」(42.2%)を合わせて6割超が賛成と回答(計61.5%)。3カ年で見ると、内定期間中の研修・課題に肯定的な学生が年々増加している。

研修や課題の望ましい形式は「eラーニング」(54.5%)が最も多い。次いで「オンラインでの集合研修」(36.9%)が続く、自宅等で受けられる課題や研修を希望する学生が多いようだ。2位以下はポイントが分散している。どのような形式であっても、入社前の研修は希望者のみに限り、学業に負担のない量・方法で行うことが求められる。

<内定期間中に研修や課題が出ることへの考え>



<内定者研修や課題で望ましい形式>



■内定期間中の研修や課題についての考え

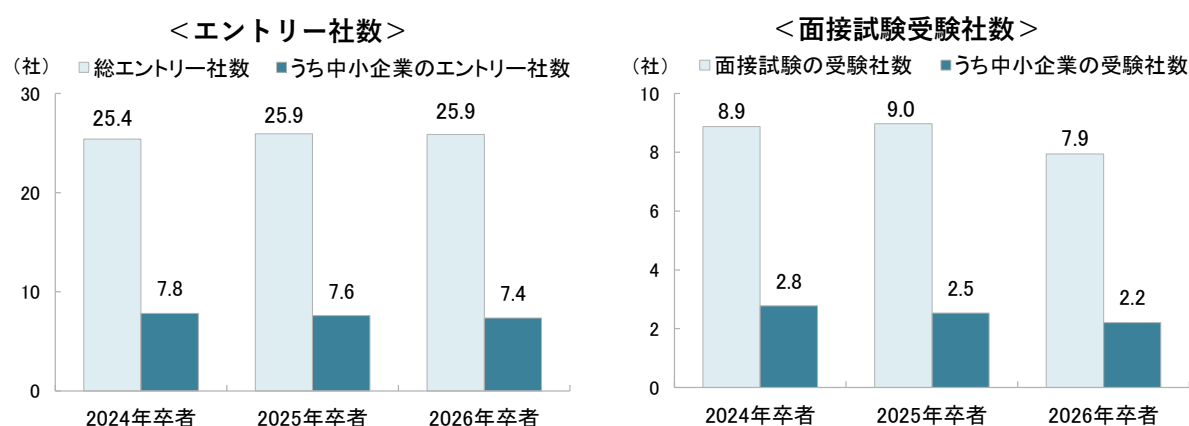
- 大学生の、時間がたくさんあるうちに、できることはしておきたい。 <文系女子>
- 内定から入社まで時間がかなり大きくあくので、モチベーション維持の一助になると思う。 <文系男子>
- 資格が必要な職業の場合、資格取得に向けての課題が出されるのはある程度仕方がないと思う。 <理系女子>
- 自分では何から手を付けたらよいか判断するのが難しいので、課題をいただけると嬉しい。 <文系女子>
- 任意というかたちで、やりたい人が有利になるシステムがいい。 <文系男子>
- 理系院生は基本的に研究で忙しく、そちらに専念したい気持ち強い。 <理系男子>

5. 中小企業への選考応募状況

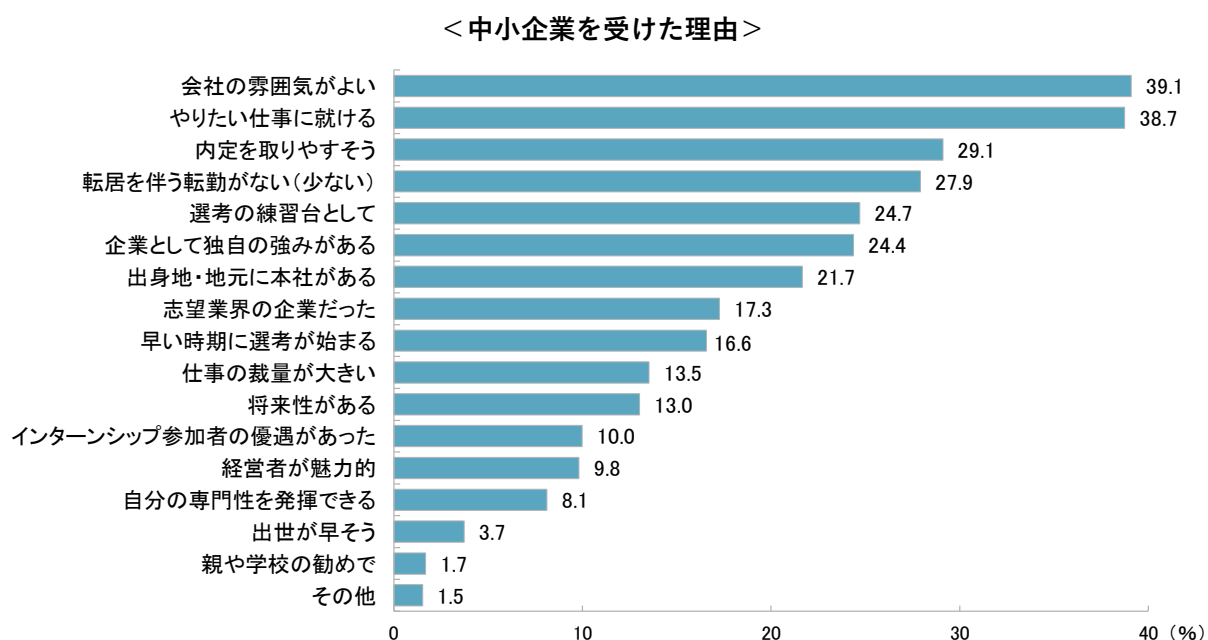
全員を対象に中小企業（従業員 300 人未満）への応募経験について尋ねたところ、「中小企業にエントリーした」と回答した学生は 54.2%で、前年（55.1%）より約 1 ポイント減少。「中小企業の面接試験を受けた」割合も僅かに減少しており（49.7%）、半数を割る状態が続く。総エントリー社数の平均 25.9 社のうち、中小企業へのエントリー社数は 7.4 社。面接試験受験は平均 2.2 社。エントリー社数に占める中小企業の割合、面接社数に占める中小企業の割合ともに、今年も 3 割を下回る（それぞれ 28.6%、27.8%）。近年の売り手市場により、中小離れの傾向が続いているようだ。

	(%)		
	2024年卒者	2025年卒者	2026年卒者
中小企業にエントリーした	60.1	55.1	54.2

	(%)		
	2024年卒者	2025年卒者	2026年卒者
中小企業の面接試験を受けた	55.5	49.9	49.7



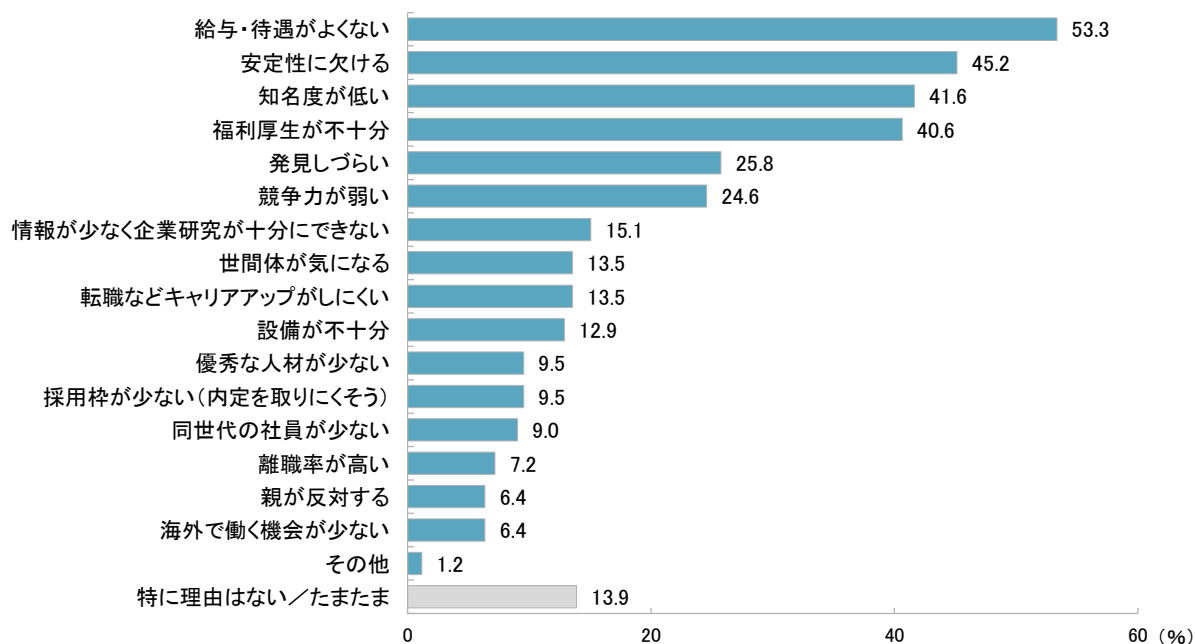
中小企業を受けた学生にその理由を尋ねた。最も多いのは「会社の雰囲気がよい」で、約 4 割が選んだ（39.1%）。インターンシップや説明会などで好印象を抱き、選考に応募したという学生が多いようだ。次いで、「やりたい仕事に就ける」が僅差で続く（38.7%）。また、「転居を伴う転勤がない（少ない）」を 3 割近くが選んでおり、大手と比較して転勤が少なく、希望する勤務地で働きやすいという点を中小企業の魅力として捉えている様子もうかがえる。



中小企業を受けていない学生（モニター全体の50.3%）にその理由を尋ねたところ、過半数が「給与・待遇がよくない」を選んだ（53.3%）。「安定性に欠ける」（45.2%）、「福利厚生が不十分」（40.6%）なども4割を超えており、条件面における懸念が主な理由を占めているようだ。

「知名度が低い」（41.6%）、「発見しづらい」（25.8%）も一定数が選んでおり、企業を知るきっかけがなかった、あるいは探し方がわからないという学生も少なくない。関連して「情報が少なく企業研究が十分にできない」を15.1%が選んでおり、企業研究や選考対策のしづらさを理由に敬遠する声も見られた。同様の意見は選考を受けた学生からも散見される。

< 中小企業を受けていない理由 >



■ 中小企業を受けた印象

- 多数の中の1としてというよりも、個人として対応してもらえた感じが強く、心象が良かった。 <理系女子>
- 面接官と学生の距離が大手企業と比較して近く感じ、逆質問などがしやすかった。 <文系女子>
- 社長を含め働いている人がみんな和やかで、楽しそうだった。 <理系男子>
- 選考のスピード感が早くて、とてもスケジュールが組みやすかった。 <文系男子>
- 内定を出す人数が極端に少ないこともあり、どの選考段階においても通過連絡までの期間が長かった。 <理系男子>
- 面接の際に社長が来ていて、どういう会社かを詳しく聞けて安心できた。大手に比べるとCMなどやっていないので、将来性や会社の強みなどが伝わりにくいかとも思いました。 <文系男子>
- 採用情報の公開が遅かったり、情報量が少ないと感じることは多く、情報収集の難しさを感じた。 <理系女子>
- 実際に働く社員からの情報が少ない。 <文系女子>

■ 中小企業を受けていない理由

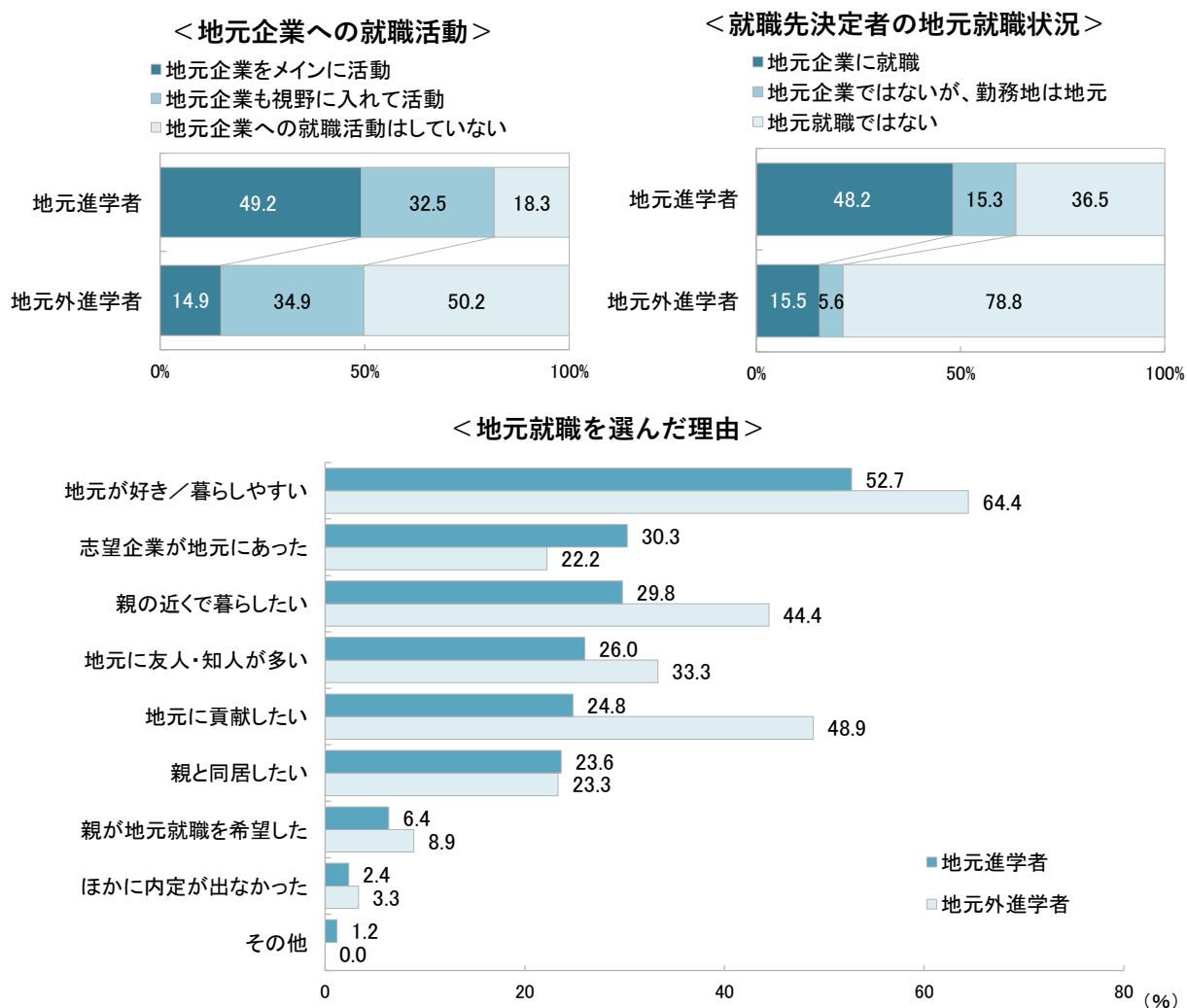
- 大企業と比較すると安定性と待遇に不安があったため。 <理系男子>
- 大手の方が活躍できるフィールドが多く開かれている点で魅力的に感じたため。 <文系男子>
- やりたいことが明確なわけではなかったため、まずは大企業で様々な世界を経験したい。 <文系女子>
- 情報が少なく、エントリーしてから採用活動が始まるまでに他の企業の採用活動が始まったので、そこで決めてしまった。 <理系女子>
- 調べられる情報が少ないと、面接などで回答する内容が薄くなってしまい、選考を通過するのが難しくなると思った。 <文系女子>

6. 地元就職の状況

出身地・地元での就職活動について尋ね、地元の大学に通う学生（＝地元進学者）と、地元を離れて進学している学生（＝地元外進学者）とに分けて集計した。

地元進学者のおよそ半数が「地元企業をメインに活動」と回答したのに対し（49.2%）、地元外進学者では1割台にとどまる（14.9%）。しかし「地元企業も視野に入れて活動」（34.9%）を合わせると、地元外進学者の約半数がUターン就職を意識したといえる。地元外進学者のうち、Uターン就職を決めた者は約2割（地元企業 15.5%、勤務地が地元 5.6%の計 21.1%）。

地元就職を選んだ理由としては、両者とも「地元が好き／暮らしやすい」が最多だが、特に地元外進学者における割合が高く（64.4%）、「地元に貢献したい」の数値が高いのも特徴的（48.9%）。地元を離れて生活したことで、地元を顧み愛着を覚えたことが、地元就職の動機となる面もあるようだ。

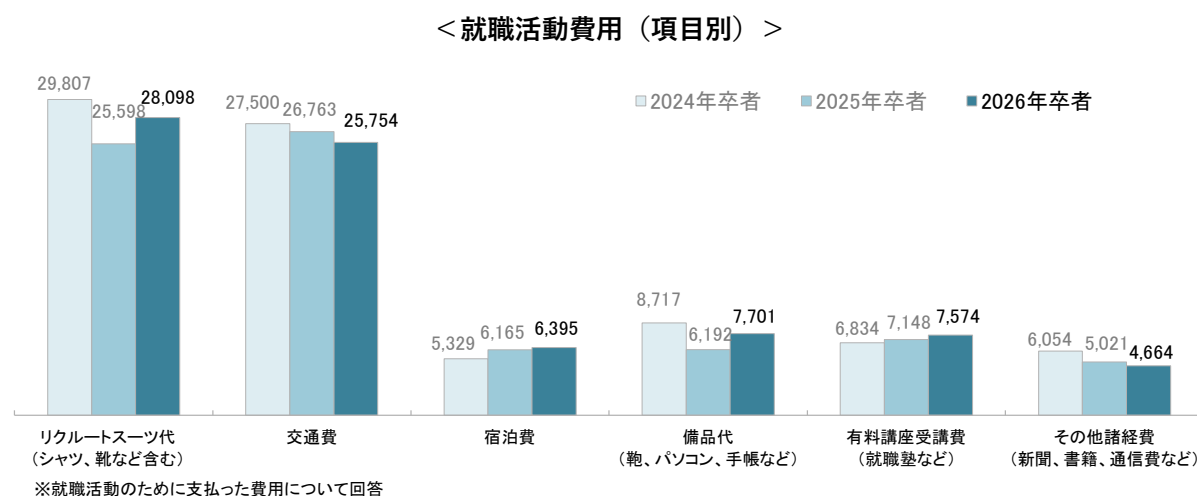
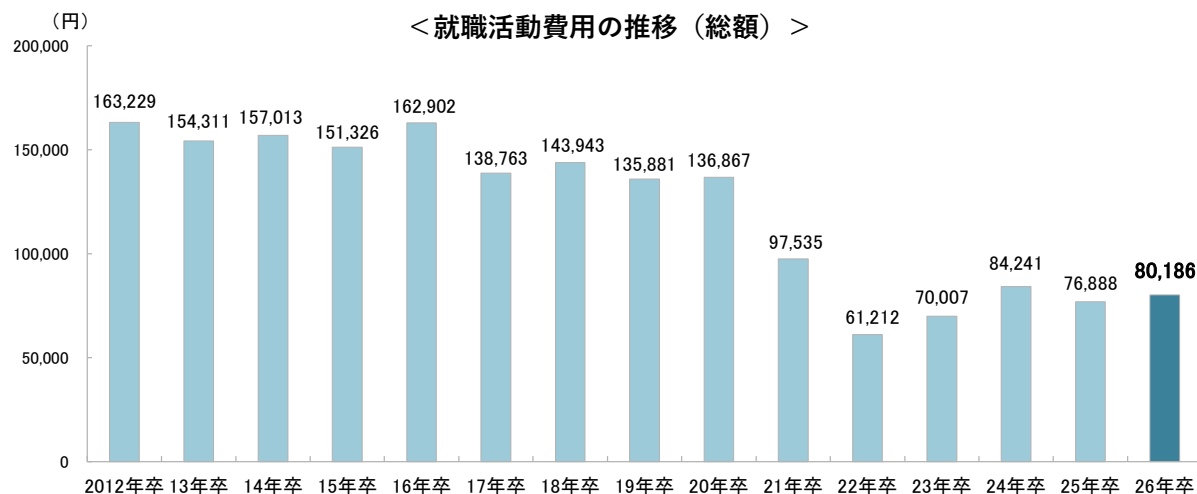


■ 地元就活で苦労した点、必要だと思う支援など

- そもそも企業数が少なかったため、選択肢が限られると感じた。 <文系男子>
- 中小企業が多く、どこも採用人数が少ないので、想像以上に内定が出にくかった。 <文系女子>
- 地元企業に特化した合同説明会があったら嬉しい。 <理系女子>
- 面接のたびに飛行機で移動しなければいけないのが大変だった。交通費の支援があるとありがたい。 <理系男子>
- 面接をオンラインで受けられるようになったのは非常にありがたく、良い手段だと感じました。 <文系女子>

7. 就職活動の費用

就職活動でかかった費用について、「リクルートスーツ代」「交通費」「宿泊費」「備品代」「有料講座受講費」「その他諸経費」の項目ごとに金額を尋ねた。各項目の平均額を足し上げると 80,186 円となり、前年調査 (76,888 円) より 3 千円余り増加した (3,298 円増)。就活費用はコロナ禍を機に大幅に減少したが、2022 年卒者を底に増加に転じ、近年は 8 万円前後が続いている。



＜就職活動費用（大学地域別）＞

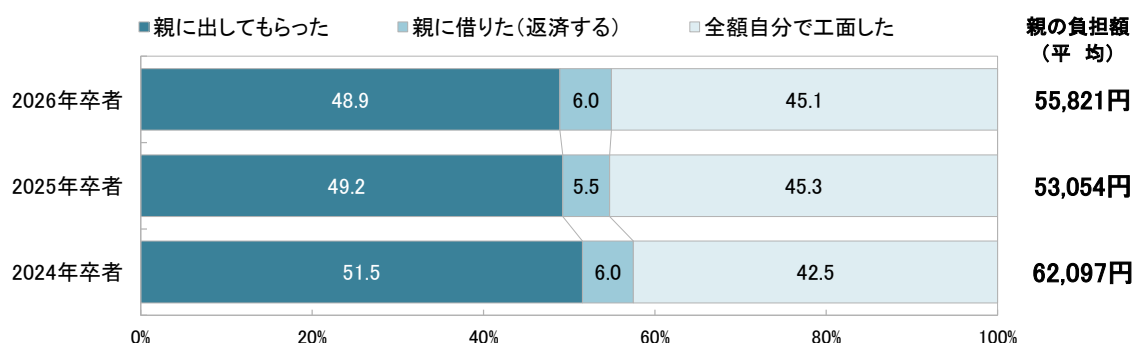
	(円)						
	北海道	東北	関東	中部	関西	中国・四国	九州・沖縄
合 計	118,731	141,797	62,363	86,337	80,664	95,947	123,768
リクルートスーツ代	31,771	43,251	26,881	29,344	26,353	20,985	32,279
交通費	57,646	56,937	16,250	28,591	27,144	38,548	37,551
宿泊費	11,000	19,714	1,909	5,547	7,602	14,426	20,481
備品代	8,486	6,397	6,656	9,751	9,134	4,820	8,176
有料講座受講費	5,143	10,000	6,308	9,009	5,654	12,981	17,404
その他諸経費	4,686	5,498	4,358	4,096	4,777	4,186	7,875

項目別に見ると(表は9ページに掲載)、最も高いのは「リクルートスーツ代」(28,098 円)。前年よりやや増加した。次いで高いのは「交通費」(25,754 円)だが、減少傾向が続いている。最終面接を除けば、オンライン中心の活動であることに加え、企業からの交通費補助を受けるケースも少なくないようだ。

地域別では、合計額が最も高いのは「東北」で 141,797 円。「九州・沖縄」と「北海道」も 10 万円を超える。「東北」と「北海道」は、交通費が 5 万円超と高いのが目立つ。

なお、就活費用をアルバイトなどで「全額自分で工面した」という学生の割合は 45.1%。「親に出してもらった」は 48.9%で、自分で工面した学生を上回る。親の負担額は平均 55,821 円で、総額の増加に伴い、前年よりやや増えた。

<就職活動費用の出どころ>



■就職活動の費用について

- 夏場のインターンなどは、オフィスカジュアルで涼しい服装が必要であったため、スーツとは別に服を用意する必要があった。 <中国四国・理系女子/総額 36,000 円>
- 地元以外での就職活動だったから費用がかかった。 <東北・理系女子/総額 330,000 円>
- 交通費が負担で、企業から支給されるだけで、説明会や面接に行ってみようという動機になった。 <関東・文系女子/総額 175,000 円>
- 対面の個別説明会や仕事体験、合同企業説明会にできるだけ参加したため、交通費がかなりかかったという印象。ただ地方住みに比べればまだマシだと思うので許容範囲内。 <関東・文系男子/総額 55,000 円>
- 新たに購入したものは特になく、スーツなども大学の入学式のものがあったのでそれを利用した。 <関西・理系男子/総額 1,000 円>
- 交通費と宿泊費はほとんど負担してもらえた。 <中部・理系男子/総額 13,000 円>
- スーツなどを有り物で済ませ、リモートでの選考を中心に受けたおかげで比較の出費を抑えられて満足している。 <関東・文系男子/総額 24,000 円>
- 必要経費だと思って、参考書には惜しまずお金を使うようにした。 <関東・文系女子/総額 116,490 円>
- スーツはサイズが合わずオーダースーツにしたため、値が張った。 <東北・文系男子/総額 173,000 円>
- 地方大学で下宿しているため、交通費支給の条件で探した。そのため本当に行きたい企業を断念しなければならないことがしばしばあった。 <中国四国・理系女子/総額 28,000 円>
- 公務員志望のため、全部自己負担だった。 <東北・理系男子/総額 225,000 円>
- 交通費を支給してくれる企業が増えてほしい。 <中部・文系女子/総額 130,000 円>
- ほとんどの会社で交通費・宿泊費が出たので、あまり就活でお金がかかったという感覚はなかったです。それよりも就活が始まるとアルバイトが思うようにできなくなってしまうので、ある程度貯金をしておいた方が良いと思いました。 <中部・文系男子/総額 130,000 円>